

GT-R

Magazine

CARTOP MOOK

平成26年12月1日発行

OWNERS FILE IV

GTR Magazine
R's Meet
2014

EVENT SPECIAL M
歴代GT-Rが一年
年に一度のフェス

特別付

富士イベント

富士スピードウェイを舞台に繰り広げる世界最大のGT-R祭り

あなたのR見せてください



相棒と一生を共にするための選択肢

憧れのR'sガレージライフ

俺のR、わたしのRを見てください

愛車撮影会×全179台収録

KPGC10 / BNR32 / BCNR33 / BNR34 / R

ひと目でわかる現役R乗りたちの嗜好と傾向

GT-Rオーナー白書2014



ひと目惚れしたガレージハウスに3台収納の秘密基地をプラス

渴望したGT-Rの隠れ家

広大な敷地内にゆとりのある漆黒のガレージハウスと大型ガレージを建設。誰もが羨むガレージライフを送る井上貴雄さん。仕事に打ち込む彼を支えるのがBNR34。その愛車を守るために建てた理想の住まいは、気持ちだけでなく心も解放させる

文：山崎真一(本誌) 写真：木村博道/増田貴広(本誌)
 ©フジハウジング ☎0480・26・4568 <http://garagehouse-r4.com/>

埼玉県北葛飾郡

井上貴雄さん × BNR34 V-spec



今年で7年の付き合いとなるBNR34はニスモZチューンに負けないようにカスタマイズを重ねて現在の姿に！ピカピカに磨き上げられ、大切にされていることが伝わる

ガレージハウスだけでなく3台収納のガレージも追加

埼玉県の東部に位置する緑豊かな北葛飾郡。国道からひと目でわかるゆとりのある敷地には手前に3台収納可能な大型ガレージが配置。フェンスを隔てた奥の邸宅もガレージハウスで計4台の愛車を保管できる。共にモノトーンで統一され、デザインの美しさを引き立てている。所ジョージ氏が所有する世田谷ベイスのような雰囲気を持つ素晴らしい住まいを所有するのが、BNR34オーナーの井上貴雄さんだ。

「マイホームは平成25(2013)年4月に完成しました。もともとはガレージハウスのモデルルーム。新聞に入っていたチラシを見て、妻と冷やかしながら見に行ったのですが、ひと目見て気に入りました。ほぼ即決状態で決めてしまいました」

ただ、最初はガレージハウスのみで、手前のガレージはなかった。

「実はこのガレージハウスの商談をするときに建築会社さんから『手前の土地も空いているんですよ』という話を聞きまして、ゆくゆくは第2世代の歴代GT-Rを揃えたい、という思いもあったことから、清水の舞台から飛び降りたつもりで、手前の土地も購入し、そこに大型のガレージを建てることを決意しました」

ガレージに関する知識はまったくなかった。決断後にはガレージ専門誌を何冊も購入し、担当者や打ち合わせを重ねたが、ひと目惚れしたガレージハウスを設計した建築会社なら、間違いないGT-Rハウスができる。不安は全くなかったという。そんな井上さんがBNR34を購入したのは平成19(07)年。それまでもRに憧れはあったが購入には踏み切れず、スーブラで敵対心を燃やしていたのだが、ニスモZチューンの登場が井上さんに火を付けた。ただ、1774.5万円の価格は逆立ちしても出せず断念。そんなときにR専

門店で見つけたのが、現在の愛車。「これをZチューン風にアレンジしたい。いい感じじゃないか」と。

そんな気持ちで購入を決意し、納車時には外観はフルZチューンに、そこからコックピットと7年間仕上げてきた愛車はZチューンに負けず劣らずの自分だけのRに変貌した。

「ニスモR2エンジンに、R35ブレーキキットなどを投入し、結局はZチューンの車両本体価格以上の費用がかかってしまいました。世界に1台、自分だけの34に仕上がって、非常に満足しています」と井上さん。

購入当時、井上さんを悩ませたのは盗難。現在の自宅に住む前はマンション住まい。そして駐車場は青空。「屋外だったので、シートカバーを掛けて、セキュリティを導入していましたが、それでも、出動しているときはもちろん、心配で寝付けない日もありました。ですから、Rのためにガレージを建ててやりた、という気持ちは強かったですね」

盗られるくらいなら売ったほうがいい、と何度も頭をよぎった。大事な宝物であるがゆえに、日々精神的に追いつめられていた。そんなときに出会った夢のガレージハウスは、まさに渴望の楽園だったに違いない。「実家からも近く、愛車を眺めて暮らせる環境はまさに理想でした。まさかガレージを同時に建てるとは思っていませんでしたが、憧れを現実にしてきて本当に幸せです」

ガレージハウスと大型ガレージの同時購入。喜びは増えたが、費用という負担も重くのし掛かる。家計を預かる奥さまは不安もあったと思うが、貴雄さんのGT-Rへの愛着や不安な思いも間近で見えただけに、



母屋よりも離れで過ごすほうが落ち着いた



ガレージ内のラックにはGT-R関連グッズ、書籍、ミニカーがズラリと並ぶ。ソファに座って過ごすのが至福のひとつ



富士スピードウェイのライセンスも取得。休日時間のあるときはサーキット走行も楽しむ。メーターやステアリングなど交換した部品もラックに収める！



壁は深みのあるシルバーブラックメタリック。スポットの光で鈍く輝く。R34後方やガレージ正面右側にもラックを設置。今後さらに井上さんに染まる

が、少し離れていることが今はいいですね。夕食後にガレージに向かいひと時を過ごし、気が向いたら深夜のドライブ。短時間でもRに没頭できることで、日頃の疲れも吹っ飛びますね。また、友人を呼んでも随分と気持ち的に楽になりました」

ガレージハウスとガレージを作ったことで大きく変わったのは、人付き合いだと井上さんは語る。

「仕事が多忙であることもあり、友達付き合いは苦手なほうでした。34を購入して仲間も増えましたが、ガレージを得たことで、さらに仲間と過ごす時間も増え、その関係がより密になった気がします。気持ちもす

ともできれば、と思っています」

また、ガレージを作ったことでRに対する気持ちも変わった。

「所有する満足度はもともと高かったのですが、以前は盗難が不安で隠していた感覚でした。でも、今は堂々と見せられるし、不安なく乗れます。ガレージを作って、気持ちの満足度まで高まりました」

帰宅後は即ガレージに向かい、スポットの下で輝くRを見ると安心するという井上さん。ガレージは日常から特別な時間へのスイッチ。日々の疲れを癒し、明日への活力を生む。そして、仲間との交流を深める。大切な隠れ家なのである。



夢は第2世代Rを揃えて暮らすこと



井上さんが気に入ったガレージハウスのガレージ部。室内側の壁は一面ガラス張り、どこからでも見られる設計。エアコンも完備され、夏場のメンテも安心。現在は利便性を考えて、奥さまのエステイマカ



自宅内のホビールーム。ガレージだけでなく、ここにも数多くのミニカーを展示。赤いソファから愛車を眺めるのは至福の時間。Rオーナーが羨む作りである



ガレージの手前にもゲートはあるのだが、自ゲートとフェンスを設置。モノトーンでシモデルハウスだっただけにデザイン性はかか

仲間との交流もより深まるガレージの存在は大きい！

ガレージハウスはビルトインガレージの側面がすべてガラス張り。1角にはホビールームがあり、ソファに座りながら窓越しに愛車を眺める。オーナーなら大満足の空間だ。

大型のガレージは自宅とデザイン、カラーをコーディネート。シルバーブラックメタリックの内装は落ち着いた雰囲気、奥にはショーボードと書棚が並び、大小のRのダイキャストカーや関連グッズが室内の華やかさをプラスしている。床には自身でタイヤカーペットを敷き詰め、チェック柄にコーディネート。徐々に自分色に染まりつつある。

「最初は出し入れのことを考えて、

自宅と向かい合わせにする案もありましたが、セキュリティ面と一緒に住む感覚を持たせたかったので、なるべく自宅に近い位置に決めました。購入当時、GT-Rとエステイマの2台でしたが、ガレージに34を並べるのは3台揃ってからのこと、ガレージハウスに。そして、エステイマをガレージに入れました」

ただ、現在はGT-Rがガレージの中央に、エステイマがガレージハウスの入り口付近。GT-Rの右隣に並ぶのはレガシイのアウトバックで、左隣は空車の状態だ。このレイアウトの真意を井上さんに尋ねる。

「最初はガレージハウスでGT-Rを眺めてニマリし、休日には知人を呼んで、ホビールームでクルマ談議に華を咲かせていたのですが、全

面ガラス張りであるが故に、生活感がどうしても見えてしまいます。しかも、ホビールームの前を通らないうと2階に上がれないので、来客があるときは、家族も気を使わなくてはなりません。時間の経過とともにどこか落ち着かず、趣味の世界に没頭できない自分がありました」

「何にも誰にも邪魔されないRと向き合い過ごす時間がほしい。井上さんが求めていた気持ちを満たすのは母屋ではなく離れた家だ。二階に住むのもいいけれど、自分には現実逃避できる隠れ家的なほうが合っていたようです。個人的にはガレージハウスでも趣味の空間と生活スペースを上手に区切られているほうがいいと思いました。これは住んでみないとわからなかった。最初は